

香川教育

発行所
高松市田村町1033-3
TEL (087) 867-4797
FAX (087) 867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組合費に含む

香教組ホームページ

<http://kakyoso.com/>

働き方改革は進んだのか？ 職員会議が消えたとき：

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、新学期が始まりました。教育現場の「働き方改革」が声高に叫ばれる中、1年単位の変形労働時間制導入のための条例が制定されました。（2021年4月1日施行）各市町の教育長や校長は、導入には慎重な立場をとっています。

制度を活用するには、いくつかの前提条件をクリアする必要がある、現段階で活用できる状況ではないと判断されたためです。藤本高松市教育長は、「1年単位の変形労働時間制は、働き方改革にはならない」と断言しています。

さて、4月に入り、香教組の各支部や専門部で定期大会や総会が開催されました。社会や現場の状況を出し合い、2021年度の運動の方針を決定します。そこでは、「現場で職員がじっくり話し合う時間と場がない」「おかしいと思っても意見をあげる場所がない」という状況が多く出されました。

「働き方改革」の名のもと、話し合いは企画委員会で行われます。ここがほぼ決定機関となり、職員会が行わず、学年団会で伝達されます。

「企画委員会の内容は、全職員に知らせられるが、内容が分からないので、事前に主任に伝えようがない」「企画委員以外の教職員の声を聴こうとしていない」「学年主任を批判するわけではないが、経験年数や立場で受け止め方が変わる。幅広い視点で検討する必要があるのでは」などの声が上がりました。また、学年主任をしている方からは、「勤務時間内に会議を終えようとするため、たくさん議題を最速で進め、立ち止まって考える時間もゆとりもないのが現状」という意見もありました。いまこそ、教職員が、豊かに子どもの実態や自分の実践を語り合い、その中から、学級経営・教材研究・学校運営に大切なことを学び、ともに高めあうゆとりが必要ではないでしょうか。

若年層の離職が近年増えていきます。職場での話し合いの減少が孤独感を生み、離職へとつながっているとも考えられます。かつて、沖縄で子どもたちが戦場へ送られた時、職員会議がなく、教員は思考停止、多くの子どもたちの命が奪われたと言われています。

35人学級 実現したけれど… 現場から先生が減った！

2021年度より、全国に先がけ、中2まで35学級が実現しました。国が、段階的に行うとしていますから、香川県としては、大いに前進したことになると思います。

国は、35人学級の実施に際して、「加配定数分の教員を充てる」としています。「加配定数」とは、学級数から算定した教員数に上乗せして配置された教員数のことです。現場では、少人数指導や専科教員として重要な役割を果たしています。

35人学級にすることで増えた学級の担任をこの教員を当てようというのです。これまで、香川県は「少人数指導教員を学級担任とし、35人学級にする」ことを認めていました。一方、少人数指導教員は少人数指導としてしか活用できなかった縛りが、専科教員としても活用できると改正され、学級担任の空き時間の確保につながりました。小学校では、ほと

んどの教科を学級担任が担うことから、空き時間の確保は大きな課題です。そのため、現場では常に、「40人学級を維持し、空き時間を増やすか、35人学級にするか」の選択を迫られていました。

ここ数年は、35人学級よりも、空き時間の確保を選択した学校が多かったようです。それだけ教員の仕事量の負担と長時間勤務が深刻だということでしょう。「35人学級で増えた学級には加配定数部分を充てる」ことは、この現状が起こるということが容易に想像できました。

香教組は、2020年11月、交渉でこういうことが起こらないよう、「県独自で教員配置をすること」を強く求めました。工代教育長は、「そういうことがあつてはならない。2021年度が今より良くなるように進めているところだ」と回答しました。しかし、現実には、35人学級は実現したものの、全県一斉の少人数指導の廃止。このことにより、35人学級の実施として直接影響を受けない小規模校の少人数指導教員も配置されなくなりました。

その負担割合が地方自治体に大きくなるようになりまし。一方、国方の負担金の活用は、縛りは緩和され、地方自治体が増員することで、教職員を増員することができるようになりました。香川県の教員の充足率が100%を超えるのはそのためです。つまり、教職員を増やせば増やすほど香川県の人件費の負担が増えるという仕組みです。（香川県は、定数内でも講師を雇用し、人件費を抑えることによって教員数を増やしてきたと推察されます。）

山は動いた！

30年に渡り、門戸を閉ざしてきた少人数学級実現へと大きく動いたことは、価値ある前進といえます。しかし、かなり不十分なものであり、本当の意味での「働き方改革」には程遠いものです。

「コロナ禍で、学校現場以外にも予算が必要」であることは重々承知のことです。しかし、35人学級の実現が30年もかかったことを思えば、コロナ禍が終息した後のために、現場の窮状について声を上げ続けなければなりません。

2月議会で、工代教育長教育長は、「本県独自の取組みとして、35人学級は、来年度から小学校では全学年で導入し、中学校では、現在の1年生に加え、2年生まで対象を広げる。これにより、教員の目が児童生徒により行き届くようになり、一人ひとりの学習状況を把握しやすくなるほか、生徒指導面でも、

今まで以上に児童生徒の話をしっかり聞けるようになることで、落ち着いた学校生活にもつながると考える。

専科指導の拡充は、来年度から、小学校5・6年で、これまで週2・3時間程度だったものを、週5時間から7時間程度に実施科目等を増やし、外国語や理科などは、中学校や高校の免許を持つなど専門性の高い教員が担当し、児童の関心を高め理解を深める授業を行うよう努める。学級担任は、新たに生まれた空き時間を活用し、ゆとりを持つてクラスの子どもたちに関わることで、学力の向上や心の安定につながると考える」と答弁しています。

学習状況や生徒指導の充実のためには、35人学級でも不十分です。欧米並みの20人台まで引き下げなければ、現状の課題を解決することは困難です。また、教職員すべての空き時間を確保し、勤務時間内に業務が終わるようにしなければ「働き方改革」は進みません。

1958年、文科省（当時は文部省）は、「1日4コマの授業」が原則として教員の基礎定数を算出していました。時代の変遷とともに、教育課程や週休日が変わっても、この算定基準はそのままです。解決のためには、算定基準を見直し教職員を増やすしかないことは明白です。教職員のゆとりのなさの被害者は子どもです。

『学校超多忙化の源をさかのぼる教師増員論 藤森 毅著（2021年4月20日発行）』に詳細が記されています。

二〇二〇年度中2国語科学習診断テスト 問題に意義あり！

2020年度、中2国語科、学習の診断テストの長文読み取りの問題について、聴覚障害児学級の担任と交流学級の担任から、聴覚障害者が登場する文学作品「熱風」（福田隆治著）から抜粋された問題文が、「聴覚に障害のある生徒を精神的に追い込むのではないか」「周りの生徒に、聴覚障害者の誤ったとらえ方を刷り込むことになり、差別を生むのではないか」と危惧すると組合に相談がありました。

この問題を作成した意図、過去の今後の使用については回答されていません。

県教委特別支援教育課と人権同和課は、申し入れの際には、特別支援教育課はこの問題に共感し、人権同和課は、教員の反応が薄いという点に反応していました。後日、送られてきた回答は、「県教育委員会においては、教育活動を通じて、児童生徒が差別・偏見に苦しむことがあってはならないと考えており、今後も児童生徒が、お互いの人権を尊重し、多様性を認め合い、個性と能力を十分に発揮できるよう、市町教育委員会とともに教育・学習の場において人権尊重が徹底される環境づくりに取り組んで参ります」とあり、過去問としての使用などの回答はありません。義務教育課からは、依然、回答はありません。

この作品そのものは、全文を読むと問題提起のある優れた作品です。出題者もそうとらえ、出題したのでしょうか。しかし、その切り取り方と設問・解説が、健常者からの聴覚障害者への一方的な見方ではないかと疑問をもたずにはいられません。

香教組は、相談があった高松支部とともに、2021年2月22日市教委・香川県校長会進路指導部、同3月24日県教委特別支援教育課・人権同和課同4月15日義務教育課に、「この問題に対する各課の見解」「この問題を作成した意図」「今後過去問に使用しないこと」を申し入れました。進路指導部からは、

できないのが現状です。こうした中で、多くのことに気づかない、気づいてもその後の煩雑さから費やす時間と労力を考えると、声をあげない状況も少なからずともあるのではないのでしょうか。

未曾有の「コロナ禍」で、「コロナ差別」に対して、県教委・市町教委は度重なる通達・通知を出し、差別事象が起らないよう現場の対応を求めています。現場の教職員も、「コロナ差別」への特別授業を行った学校も少なくはありません。一方で、日常的にあるマイノリティに対する人権については、鈍化しつつあるのではないかと考えられます。

教職員の人権意識は高く、今回の問題も意図的に行われたとは考えにくく、日々の業務のゆとりや経験の有無などから偶発的に発生したものと考えられます。このことを、「おかしい」と声をあげた現場の教員の感性こそが、生徒を守っているといえるでしょう。声を上げた教員の勇気に感謝と敬意を表するとともに、私たち自身も常に立ち止まり振り返る必要があるのではないのでしょうか。

香教組は、この問題を広く教職員と共有し、どの子どもが大切にされる学校づくりと教職員のゆとりが児童生徒の人権と学びの保障につながると考え、この問題を過去問として使用することを中止するとともに、このような問題が起らないように取り組んでいきたいと考えています。（申し入れ書等は香教組HPに掲載の予定です）

- ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
- 1 脱力感 2 絶望感 3 疲労感 4 無力感
- 本文では、香奈子はどのような人物として描かれているか。次の1～4から最も適切なものを一つ選んで、その番号を書け。
- 1 誰よりも責任感が強く、自分が一度決めたことは絶対に諦めないでやり遂げようとする人物
2 どんなに苦しい状態に追いつかれても、なんとか自分の力で困難を乗り越えようとする人物
3 学校の先輩として、テニスに打ち込むに振り組んでいる先輩を心から応援しようとする人物
4 自己中心的で、自分の心を軽くするために周囲の人に今の状況を聞いてもらおうとする人物

（2020年度中2国語科学習の診断テストより抜粋）

字		手引き	
㉒	1	2	
㉓	1	いつもいつも周りのことばかりうかがって（生活している）	
㉔	2	（例）空気をよんで雰囲気をつくわさないため（17字）	
㉕	1	4	
㉖	2	2	

○文脈の中で語句の意味を捉える力を試す。
・早苗の「よかったわね、孝司。香奈子が褒めてくれてさ。」という言葉を手がかりに考えよう。
・早苗はよく香奈子に好意を持っていることをからかっている。
○文章の内容を正しく捉える力を試す。
・聴覚にハンディキャップがある香奈子は「周りで誰かが言ってることを全て聞き取ろう」としていることを手がかりにしよう。
○登場人物の心情を正しく読み取る力を試す。
・「空気のよめない人にならないため」（15字）、「クラスの雰囲気をこわさないため」（15字）等類答可。文末が「ため」でなければ-1点。
○登場人物の心情を正しく読み取る力を試す。
・香奈子のために何かをしたいのに何もできない自分の「もどかしさ」に奥歯をかみしめて」していることを手がかりに考えよう。
○登場人物の人物像を読み取る力を試す。
・1は「誰よりも責任感が強く」が、3は「学校の先輩として」が、4は「自己中心的で」が適当でない。
・「大したことない」と繰り返す香奈子はどのような人物か、考えよう。

（2020年度中2国語科学習の診断テスト回答と解説より抜粋）



教室にタブレツ
ト端末が来ました。
新学期早々、初期
設定に追われました。

た。▼文科省は、「校長のせいで端末が眠ることがないように」と通知を3月に出しました。いくつかの市町教委からは、「4月中には、使えるようにしておくように」と▼高松市は、児童と同じ端末の教師用が配布されていません。これで、どうやって研修ができるのでしょうか▼2021年度の始まりは、実質3日しかありませんでした。職員会、学年団会、新学期受け入れ準備と、早々に長時間勤務が続きました。これで、いつ端末の研修ができるのでしょうか▼「端末を家庭に持ち帰らせる」家庭の通信環境の格差をどう解消するのでしょうか▼高松市の端末の充電は保管庫で夜行われます。持ち帰ったときのバッテリー切れは想定していないのでしょうか▼ローマ字入力かひらがな入力か、ひらがな入力なら50音表が否か。中学校で複数の小学校が一緒にいる場合、揃えておかないといけないのか▼大小様々な課題や矛盾に対しての現場の悲鳴が聞こえます。また、「働き方改革」から遠のきました。